

国際経営フォーラム開催の趣旨と概要

照屋 行雄

1 フォーラム開催の趣旨

国際経営研究所は、広い意味での国際経営に関する問題を扱っており、特に共同研究という方法で研究している。その成果は、学内における教育活動で活かすと同時に、外部に対して積極的に公表することとしているが、特にビジネス社会においてはその成果を、種々の形で理論的・実践的な公表に努めている。

当研究所の実施する当該事業の一環として、去る2004年3月10日（於一平塚商工会議所）に2003年度国際経営フォーラムが開催された。統一テーマは、「地域の時代とビジネス革新—地域に根ざし、地域と共に生きるビジネスの創造」と設定し、基調講演とパネル・ディスカッションの形式で課題に取り組んだ。

今回のテーマ設定の背景としては、1つには、地域の時代とは何かという問題設定である。ここでは、地域の時代が持つ特徴、地域の時代と言われている現代についての認識を明らかにしようとする。次に2つには、ビジネス革新についての新しい視点とは何かという問題提起である。すなわち、ビジネスの創造、経営方法の改革、研究開発の戦略、企業組織の変身などのあり方が求められる。そして3つには、ビジネス革新の時間的・空間的地域とはどうあるべきかという問題認識である。地域におけるコミュニティ、その中での生産者、消費者、そしてビジネスというものを総合的にとらえ、それらの共同作業として新しい地域またはコミュニティを形成していく。その中で、ビジネスの創造や革新が達成されるという仮説の検証を行うことが重要となる。

これらの3つの視点を特に意識して、今日新しい時代における地域の再生とビジネスの創造、ビジネスの再発見、ビジネスの革新を考える必要がある。上記のテーマは、このような問題意識を基礎として設定された。

2 フォーラムのプログラム

2003年度国際経営フォーラムのプログラムは、以下のとおりである。

国際経営フォーラム・プログラム

地域の時代とビジネス革新

—地域に根ざし、地域と共に生きるビジネスの創造—

日時—2004年3月10日（水）13:30～17:00

場所—平塚商工会議所 3階大ホール(平塚市)

司会 田口澄也氏(神奈川大学 産官学連携推進室課長)

12:30 フォーラムの受付

13:30 開会の挨拶 照屋行雄氏(神奈川大学 国際経営研究所所長)

< 第一部 基調講演・パネリスト報告 >

13:40 基調講演—斉藤毅憲氏「地域の時代とビジネス」

(横浜市立大学教授、日本経営教育学会常任理事)

14:20 ブレーク(5分)

14:25 パネリスト報告①—小泉光一郎氏「ビジネス革新と地域との共生」

(相模石油株式会社社長)

14:50 パネリスト報告②—小沢裕司氏「地域におけるビジネス支援」

(神奈川県平塚商工労働センター商工課長)

15:15 パネリスト報告③—海老澤栄一氏「地域の時代におけるビジネス創造」

(神奈川大学教授、日本経営診断学会会長)

15:40 ブレーク (10分)

< 第二部 コメント・ディスカッション >

15:50 コメンテーション—伊澤繁雄氏「ビジネスの創造と地域活性化」

(平塚商工会議所専務理事)

16:05 パネル・ディスカッション

コーディネーター 後藤 伸 氏(神奈川大学教授)

パネリスト 小泉光一郎氏(相模石油株式会社社長)

小沢裕司氏(神奈川県平塚商工労働センター商工課長)

海老澤栄一氏(神奈川大学教授)

16:55 閉会の挨拶 三村真人氏(神奈川大学教授、神奈川大学就職部部長)

17:00 フォーラムの終了

後 援 平塚市 および 平塚商工会議所
協 力 神奈川県湘南地域産学公交流推進協議会
および 神奈川大学産官学連携推進室
主催 神奈川大学 国際経営研究所

3 フォーラムの成果

当日のフォーラムには、平塚市内や近隣湘南市町村から50名以上が参加し、基調講演並びにパネリストの報告に熱心に耳を傾けた。当日の斉藤毅憲先生の基調講演、パネリストの小泉光一郎氏、小沢裕司氏および海老澤栄一氏のそれぞれの報告、並びにコメンテーターの伊澤繁雄氏およびコーディネーターの後藤 伸氏のコメント・ディスカッションによって、地域の時代の特徴やその意義、中小企業のビジネス革新、地域におけるビジネス創造と地域との共生などの重要な課題が明らかにされ、また、その方向性が示されたように思う。

当日の録音テープを忠実に記録したものを基礎とし、筆者の責任で若干の編集上の工夫を加えて、国際経営フォーラムの概要をここに誌上採録した。関係者の理解と協力に謝意を申し上げたいと思う。

最後に、今回の国際経営フォーラムの開催に当たって後援頂いた平塚市および平塚商工会議所に対し、心より感謝申し上げる。また、フォーラムの運営に協力頂いた神奈川県湘南地域産学公連携推進協議会（KSSK）の会員企業・団体・事務局の皆様にもお礼を申し上げたい。そして、学内機関ではあるが神奈川大学産官学連携推進室の協力に対しお礼の気持ちを表したい。

なお、長時間にわたる基調報告並びにパネル・ディスカッションの録音テープを丁寧に記録して頂いた当研究所客員研究員の金 宇烈氏の協力を多とし、記して感謝したい。金氏の研究者としての将来の成功を心より願う。

(注) フォーラムの概要を採録するに当たっては、次ページ以降の各報告の記載について、講演での内容と語り口調をできるだけ忠実に反映するように努めた。従って、文体については、「です」・「ます」調のままにしてある。また、文責はすべて筆者にあることを断っておきたいと思う。